

川崎陸送◆QCC大会

業務平準化&管理徹底

川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)は9日、QCC選を勝ち抜いた10サークルの結果、配車業務内容や情サークル(小集団活動)代が、それぞれの業務改善に報の共有を進めて業務平準



優秀賞を獲得した京都営業所のナイトクラブメンバーと樋口社長

化と管理徹底を図った京都営業所の「ナイトクラブ」が1位の優秀賞を獲得した。

樋口社長は「金額や数値を明記してもらっているが、これは金銭感覚を身に付けてもらうため。仕事を着ける以上、金額に換算することは必要だ」と説明。更

優秀賞を獲得した京都営業所のナイトクラブメンバーと樋口社長

人など、他者の意見を取り入れるようにして欲しい」と話した。

大会では、誤出荷の削減、入庫作業時間の短縮、玉掛け作業の統一化及び効率化など多様なテーマについて発表。また、個人で競われる優秀提案発表では、優秀賞に輝いた赤穂営業所の山根直英氏、山口営業所の寺内務、田中健児の両氏をはじめ、入賞者の一部提案を報告した。

解できていない業務の多さを課題に挙げ、勉強会の実施や配車表の作成・整理、情報共有できる仕組みの提案・実施など展開。業務の平準化と理解度を深めるとともに、更なる管理徹底につなげた。審査員は、取り

インドで野菜販売実証

店舗・倉庫数増を視野

川崎陸送が9日開いたQCCサークル(小集団活動)代表発表大会で、樋口恵一社長らがインド事業の進捗よくについて報告した。事業担当者からは「取り扱う野菜の販売を、7月からコルカタ市内のスーパー2カ所で実証的に開始した。一方、野菜の大きさにばらつきがあり、農家にはその度合いを小さくするようお願いしている」と話した。

インドでは、販売する野菜の保管と流通加工を倉庫・作業場で実施。バナナの葉

ド国内で珍しい手法を取り入れている。これら流通加工された野菜を、付加価値の高い「プレミアム野菜」として販売している。

樋口恵一社長は「インド国内でも業務改善に取り組んで使え、QCC活動は実際に仕事で使える取り組みで、仕事とは別の活動ではない。また、今後更に店舗数や倉庫拠点数を増やしていきたい」と述べた。(井内亨)